

代官山MEDICAL 卒業生の勉強法 ⑧



●塩飽克庸君による日本医科大学の傾向と対策 —Part2—

東京慈恵会医科大学4年 塩飽克庸君

Mathematics

■ 数学

〈傾向〉

日医の数学は私大医学部の中でも難易度は高く、国公立に近いような本格的な問題であるといえます。問題数としては、2009年から、大問が4題から3題に変わり2011年度もおそらく大問は3題であると思われます。例年大問の1番(2009年度以前は1番2番)が小問集合の形でやさしめであり、後半の3番4番が、難しめの問題になっています。以下に前半で点数を稼ぎ、後半粘るかがポイントになってきます。しかし、2010年度の1番は軌跡の問題で難しくはないものの時間がかかる問題でした。したがって、日医の試験では時間配分も十分気にしなくてはなりません。お助めの取り組み方はまずはじめの30分で1番を終わらせ、2番をいきなり完答しに行くのではなく、2番3番の前半部分だけ解いてしまってください。難しめとはいえども大問のはじめの方は解きやすいです。(もちろんいきなり完答できそうならやってもかまいません)とにかく時間切れで3番が全く手つかずという事態は避けましょう。

2010年度は、3番がいきなり意味不明という感じだったので、1番2番に集中していいのだと思います。それは、年によって異なるのでみきわめてください。

〈勉強の仕方〉

日医の数学対策では、立体・確率・軌跡といった受験生が苦手とする分野がしっかりできなくてはなりません。まずは過去問を解いて、どこまで解けるのかや問題の傾向をつかんでください。おそらく、ある程度解けてしまう人や、まったく解けない人、あと(1)でいきなりミスをして全滅になった人がいると思います。いきなりミスをした人はあまりおちこむ必要はないと思います。私自身もよくしましたし、そういうところで自分はミスをするのかと考えるいい機会だと思ってください。本番でやらなければいいのですから、それまではミスの傾向(絶対値を書き忘れるなど)をよく分析して、丁寧に解く癖をつけていってください。

過去問が終わったら、私は日医でよく出題される分野(立体・確率・軌跡)を中心に難易度の高めの問題集で演習をしました。代官山MEDICALにもおいてある「医学部攻略の数学」はおすすめです。これはあくまで、授業の予習・復習にプラスαでやるものなので優先順位はテキストです。がんばってみてください。

■ 物理

〈傾向〉

日医の物理は満遍なく出題されています。4題構成で1番は力学、熱力学がでるときは4番が多いくらいで目立った傾向はないと思います。しかし、問題の難易度はやさしく、満点が狙える年も多くあります。2010年度はやや難易度が上がり、電気力線や近似の問題などやりにくいものもありましたが8割は確保したいです。また4題で60分という時間は日医ではさほど苦しくはないですが1題15分というペースは意識しておいた方がいいと思います。

〈勉強の仕方〉

基本的には、テキストや基本的な問題集で勉強すればいいと思います。しかし、公式の丸暗記&あてはめは日医くらいになると危険です。解けるだけでなく、よく問題の物理現象を理解するように、心がけてください。過去問をやればわかりますが、日頃丁寧にやっていたら楽勝です。ぜひ物理は得点源にしてください。

Physics